

実践事例

(郷土) 矢作南小学校 3年

学区の魅力を伝え合おう～見つけよう矢南学区のいいところ～

9月～12月(20時間)

1 ねらい

本単元では、学区のよさを見つける活動を通して、学区には様々な場所があり、そこには魅力ある人がたくさんいることに気づくことをねらいとしている。また、調査活動や取材の中で地域の人たちの思いを知り、支えてくれている人がいることに気付かせ、学区のよいところをこれからも大事に守っていきたいという気持ちを育てたいとも考えている。自分や周りの友達だけでなく、家族や地域の人たちの思いを知ること、この町に住んでいてよかったと実感できるようにしたい。さらに、追究した学区の魅力を地域の人たちにも伝えられるようにパンフレット作りに取り組み、学区のよさを守っていこうという気持ちを高められるようにしたい。

2 実践の概要

(1) 方法

子どもたちが生活する学区の中で、自分の気に入った場所と、その理由をワークシートに書き、全体場で発表しあう。その後保護者に、学区内の自慢できる場所を聞き、伝え合う。

いくつか出てきた自慢の場所を公園・神社・駅などのカテゴリーに分けて、クラスの児童をグループにし、取材をする。

取材を通して得た情報や、感じたことをパンフレットにし、お互いに発表し、その後も掲示して、自由に見られるようにし、学区への愛着を深めた。

(2) 教師の支援

まず、保護者向けアンケートを作り、子どもたちとは違った視点で矢作南小学校区の良いところを挙げてもらうようにした。

また子どもたちが取材する際に、学区の総代や町内会長、安全パトロールの方、駅職員の方々に協力をお願いし、あらかじめ質問事項を伝えておいた。

さらに、調べてきたことを共有するために、各グループの発表の場を設けた。



写真1 駅で働く人にインタビューをする児童の様子



写真2 神社を訪れた人に話を聞く児童の様子

(3) 具体的な手立て

児童の一人調べでは、公園や神社、駅、店などの外観を抑えるだけになってしまうので、そこで働く人の考えや思いなどを聞くことができるように、話を聞く機会を設けるようにした。また、お気に入りの場所から、自慢できる場所、さらには学区の良いところへと気持ちが高まっていくような書き込みができるようにワークシートに示すようにした。



写真3 学区の総代さんに話を聞く児童の様子

3 実践を振り返って

この題材の最終的な目標は、自分たちの住んでいる矢作南小学校区への愛着を深めることにある。そのため自分がいつも遊ぶ公園や、お祭りのある神社、よく買い物をする店にとどまらずに、保護者に学区の自慢できる場所を聞いたり、そこで働いている人や総代さんに取材したりして、考えていることや、願いを聞くようにした。この活動を通して、子ども達は、自分たちが生活する中で、様々な人に助けられていることに気づくことができた。



写真4 学区のお祭りに参加する児童

例えば、お祭りを企画運営している人は、学区の人たちに楽しんでもらうことを考えていることを、駅で働く人たちは、電車に乗降する人が快適に利用できるように気を配っていることを知ることができた。また、これらの人たちは、学区に対して深い愛情を持っていることに感銘を受け、その後の子どもからの話や、日記などで、町内のお祭りに参加したことや、地域の人たちにあいさつをしたなどの話を聞くことができた。子どもの心の中に、学区に対する愛着が深まったことが伺える。

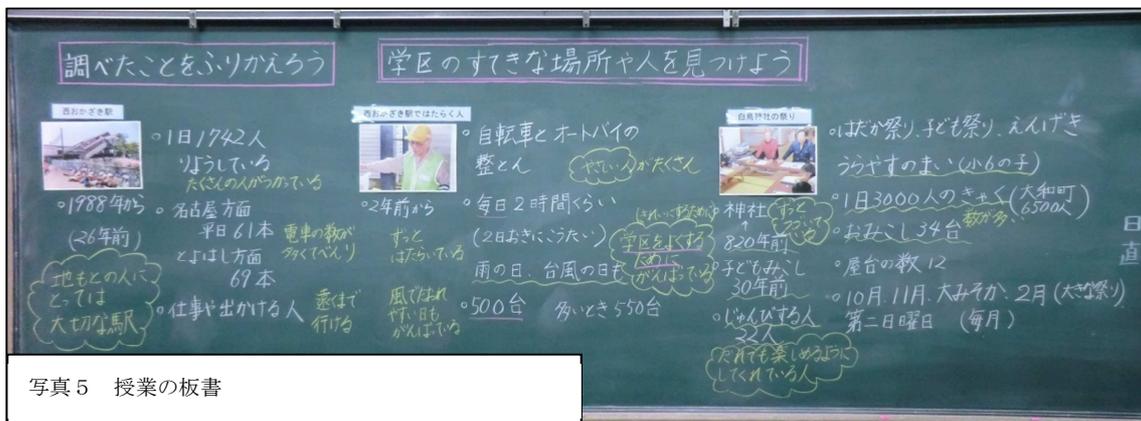


写真5 授業の板書